

自己点検・自己評価

(令和5年4月)

学校法人ギャラクシー学園
東京ギャラクシー日本語学校

自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育理念・目的等		評価
1	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
2	1-2 学校の特色は何か	5
3	1-3 学校の将来構想を抱いているか	5
4	1-4 理念に基づく教育が行われているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

「日本語学習を望むあらゆる外国人に対して、その目的を達成させるべく質の高い日本語教育を提供し、日本語によるコミュニケーションと国際相互理解の促進を目的とする」という理念のもと、創立以来37年を迎えた。2年間続いた新型コロナ対策のための水際措置が緩和され、対面授業が再開した。国内の新型コロナ対策により、陽性者・濃厚接触者にはオンライン授業を提供する対応は続いており、ハイブリッド授業は規模は小さくなったもののほぼ全クラスで継続された。ハイブリッド授業の技術向上による授業の質の高さ、また対面授業での満足感より、学生からは授業と教師指導力への高評価を得ている。

2. 学校運営		評価
5	2-1 運営方針は定められているか	5
6	2-2 事業計画は定められているか	5
7	2-3 運営組織や意思決定機能は確立され、効率的なものになっているか	5
8	2-4 人事や賃金での処遇・職場環境の改善に関する制度は整備されているか	5
9	2-5 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5
10	2-6 学校運営を客観的に評価し、維持向上させる機能が整備されているか	5
11	2-7 危機管理体制は整備されているか	5
12	2-8 施設・設備は教育上の必要性及び学生の安全確保に十分対応できるよう学校教育法に基づき整備されているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

多国籍の学生の多目的なニーズに対応する学校運営はコロナ禍にあっても保たれ、学園の理事会、評議員会により客観的に運営状況を評価され、継続できている。
政府の水際対策措置が2022年3月に緩和され、自国で待機していた学生を含めた新生者が続々と入国してくる年であった。アクリル板設置やマスク着用、アルコール消毒の徹底に加え、エントランスに入館者の体温の自動検知器を2台設置し、学生の安心と安全を確保した。
また、2023年1月より都条例に準じて建物内、敷地内全域を禁煙として、近隣周辺に迷惑をかけないための対策を講じた。学生には日本の生活、都条例の存在などを十分理解させるようオリエンテーションを徹底し理解を求めている。

3. 教職員		評価
13	3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
14	3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
15	3-3 教職員評価を行っているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

教職員一丸となって、教育理念・目的の達成に日ごろより認識を持って活動している。対面授業も復活して教職員の評価は授業のモニタリング等を行い、理事長・校長の積極的な状況把握により行われている。

自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

4. 教育活動		評価
16	4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
17	4-2 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
18	4-3 目標に向け授業を行うことができる要件・資質を備えた教員を確保しているか	5
19	4-4 成績評価は適切に行われているか	5
20	4-5 各種日本語試験の認定率向上のための指導体制は整っているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

もともと卒業後の進路は様々で、その目標実現のためのカリキュラムも選択肢を多く作って対応しているところであるが、日本語の技能習得のための目標値の設定やクラス運営の改善など、学生の動向に合わせての対応に常に気を配っている。出席管理も早めの警告書発行や面談指導により、行き場のない学生が出ないように、対面授業になったからそのきめ細かい指導を行っている。従来試験対策クラスも行えるようになり、必要に応じて下位クラスの受験対策もカリキュラムに組み込みながら指導が行える体制となっている。

5. 学生支援		評価
21	5-1 進学・就職指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
22	5-2 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	5
23	5-3 学生の心身の健康管理・自己・怪我サポートを担う体制があり、有効に機能しているか	5
24	5-4 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
25	5-5 保護者と適切に連携しているか	5
26	5-6 卒業生への支援体制はあるか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

国籍に関わらず精神的に不調を訴える学生の数が年々増加しており、入学前の聞き取りや入学後の対応を注意深く行うようにして対応策をその人により練りながらすすめているところであるが、それでも予期せぬ事故が起きるなど、難しい状況が起きることがある。緊急連絡用の学校携帯電話やクラスLINEを利用したコミュニケーションで、学生が孤立しない体制は整えてはいるが、なかなか難しいところであり、引き続き対策を講じながら学生の学習面以外のことにも気を配りながら学校運営を続けていきたい。進路指導としては、教員による進学指導と、キャリアセンターによる就職支援があり、どちらも成果を出している。

6. 在留管理と生活指導		評価
27	6-1 入国・在留関係の管理・指導と支援が適切に行われているか	5
28	6-2 日本社会を理解するための支援が適切に行われているか	5
29	6-3 我が国の法令を遵守させる指導を行っているか	5
30	6-4 常に最新の学生情報を把握しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

準備教育課程が「令和4年度在留管理優良校」として「適正校」に加えて出入国在留管理庁より選定された。問題在籍者数0が3年以上連続していることという厳しい基準であるが、一般課程もそれに近い数字であるため、当校の在籍管理が優良であることの証である。引き続き、厳しくするだけではない、学生に寄り添った進路指導や学習指導を軸に在籍管理を進めていきたい。

自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

7. 学生の募集と受け入れ		評価
31	7-1 学生の受入方針は定められているか	5
32	7-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
33	7-3 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	5
34	7-4 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5
35	7-5 適正な定員設定及び在籍者数になっているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

募集活動がほとんどオンラインのままの一年間であったが、韓国、中国の事務所の活躍や各国エージェントとの関係維持により、コロナ禍前の募集数に近い学生の募集がなされるようになった。各国共、留学を控えていた2年間の反動とも言えるが、引き続き適切な選考を重ねていき留学目的が明確な学生をより多く受け入れていきたい。

8. 財務		評価
36	8-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5
37	8-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5
38	8-3 財務について会計監査が適正に行われているか	5
39	8-4 財務情報公開の体制整備はできているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

諸々の物価高騰の中でも、まずは対面学習のために入学してくれた学生に満足した学習環境を提供するよう教室内のモニター設備などを計画的に整えた。昨年に引き続き事業収支にも不安要素はなく、会計監査も適正に行われて、財務状況公開については要望があれば対応できるようになっている。

9. 法令等の遵守		評価
40	9-1 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
41	9-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	5
42	9-3 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	5
43	9-4 自己点検・自己評価結果を公開しているか	4
44	9-5 関係省庁への定期報告を遅延なく実施しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

法令等を遵守し、適正に運営をしている。改善点が見つかった場合は速やかに対応できるように柔軟な視点を持ち、自己点検・自己評価の公表については要求があれば公開できるようにしている。

10. 社会貢献		評価
45	10-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	4
46	10-2 学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	5

〈現状・具体的な取り組み/課題〉

地域や社会の要望があれば、教育資源や施設を活用してもらう体制はできている。引き続き感染予防の観点から、外部の方の施設内への立ち入りには細心の注意を払わなければならないという認識を持ちつつ、必要があれば前向きに対応する。
学生のボランティア活動は積極的に後押しをしており、地域からの情報があれば公開し支援していく体制はできている。

自己点検・自己評価項目

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

〈総括〉

政府による水際対策が緩和されたが、行動制限はある程度続けられた中での一年間であった。学校運営は十分な学習環境と教育の質を保つことを第一にしつつ、徐々に緩やかな感染対策に切り替えて、学生が留学生生活を有意義に送れるように気を配っている。柔軟なカリキュラム運営、クラス運営、在留管理、進路指導をつうじて、良好な運営を行っている。

責任者 永井 早希子

実施期間 令和4年4月1日～令和5年3月31日